

私の写生地

フランス南西部を訪ねて

会員 小島 兼一

支部の2〜3人から、ヨーロッパの写生地で大作にも小品にもなる場所へ連れて行ってほしいとの要望があり、4月15日(日)〜25日(木)でフランス南西部へスケッチに行くことになりました。

この地方は25年前の2月に友人と2人で油絵道具をレンタカーに積み、1ヵ月ぐらいかけて村々をスケッチした場所で、日本の安曇野の様な地方です。山間部の村々は産業革命に取り残された為、中世の面影があちらこちらに残っています。

交通は、羽田よりエールフランス航空で出発、パリのシャルル・ド・ゴール空港で乗り継ぎ、トゥールーズ空港に着き、そこからは添乗員とレンタカーで各村々を案内しました。

まず最初に訪れたサン・シルク・ラポビはロット川を眼下に望み、村の頂上に教会の尖った茶色い屋根があり、村は中世の雰囲気留める瓦

の屋敷の村です。ロット川には粉引きの屋敷があり、鏡の様に川に写りとてもきれいでした。



▲ (スケッチ) ロカマドール

次に訪れたロカマドールは、1166年に聖なる墓が発見されて以来、巡礼地の一つとされ、教会や聖堂が険しい崖にへばりつく様に建ち、下の街道には宿や小塔や城壁の門などがところ狭しと建ち並んでいました。スケッチをするのには、朝夕場所を変えれば、順光で画けるの

が良い所でした。近くにはラスコー洞窟もありました。

次に訪れたユゼルシュは、ドルドーニュ川の支流の中州に出来た街で、城や教会を中心にして灰色の坂が特徴の街でした。

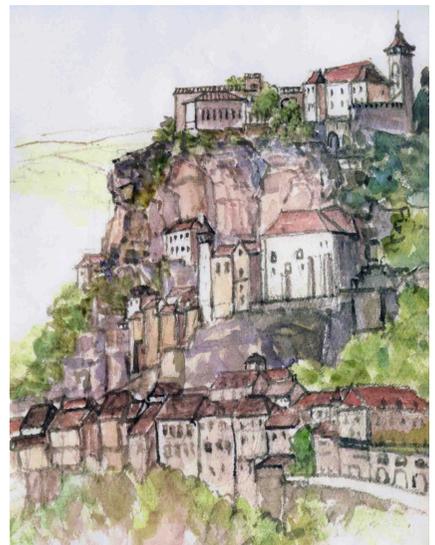
次に訪れたルブレサックは、ドルドーニュ谷を見下す場所にある集落で、狭く曲りくねった小道、石灰岩でできた中世の赤い屋根の家々がありました。庭先には草花やアヒルがあり、絵先に出てきそうな風景の村でした。ホテルの窓からは朝夕、緑の絨毯の上に雲海がたなびいて、とても美しい風景でし

た。

次に訪れたカレナックは、川岸に建つ修道院を中心にした村で、ドルドーニュ川が重要な交通路であった頃は、交通の要所でした。川岸に17世紀に修道院長であったフェネロンが、「チレマックの冒険」で書いた塔があります。

最後に訪れたオートワールは、谷間の村で、葡萄畑で富を得た地主が多く住んでいたため、小さなシャトー風の館が幾つも残っている村でした。

今回のスケッチ旅行では、ボルドーからドルドーニュ川上流の村々、東は赤い屋根、南は茶色い屋根、西は灰色の屋根、北は黒い屋根、地形は変化にとんだ場所に集落



▲ (スケッチ) ロカマドール

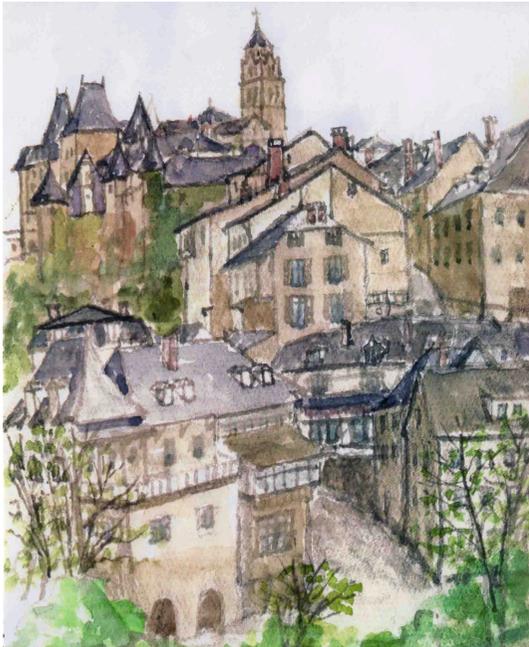


があり、色々な角度からのスケッチが出来た為、移動が少なく済みました。又、今回は油絵ではなく、水彩スケッチと写真が中心の取材となりました。

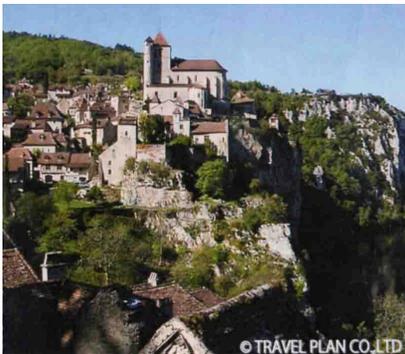
今後、これらのスケッチを元に新しい作品を制作していきたいと思えます。

◀ (スケッチ)
コロンジュ・ラ・ルージュ

▼ (スケッチ) ユゼルシュ



▼ (スケッチ) ルブレサック



◀ (写真) サン・シルク・ラポピ

▶ (スケッチ) カレナック

